



鎌倉市社会福祉協議会

マスコットキャラクター「かまリン」

令和4年度 事業報告書

社会福祉法人鎌倉市社会福祉協議会

はじめに

社会福祉法人鎌倉市社会福祉協議会が、令和4年度事業報告を策定するにあたり、誰もが手に取って見ていただけるようなわかりやすさ、シンプルさを心がけ作成しました。

事業報告の特色

- 1 「令和4年度 鎌倉市社会福祉協議会 会計区分一覧」にある会計区分と、事業計画に記載された取組み事業を連携させました。このことにより、資金収支決算書と事業報告を一体のものとして相互の関連性を持たせ捉えることが可能となります。
- 2 各事業における1年間の取組みに対して、「評価」を加えることとしました。この「評価」は、令和4年度については、指標となる目標値がないため、取組みに対する自己評価となります。1年の活動を振り返り、その取組み経過も大切にし、どのような成果を生み出したのか、またどのような課題が残ったのかを事業ごとに総括し、評価に反映させました。
- 3 前項の評価を行うため、「事業区分別の主な取組み」において、実績とともに事業を進める中で得られた成果などを記載しました。また、令和5年度以降の取組みに反映させるための課題を提示しました。このことにより、それぞれの事業における目標や達成度を認識し、目標に向かって取り組む職員のモチベーション向上にもつながっていくものと考えています。

令和 4 年度事業の取組み報告

【評価について】

評価基準を5段階に設定し、事業ごとに自己評価を加えました。

重点事項については、12事業あり、「3 取組めた」「4 想定よりやや取組めた」が、9事業で全体の75%でした。また、「1 取組めなかった」が1事業あり、「なんでも相談」の各老人福祉センターでの実施が未実施ということであり、次年度への課題としていきます。

事業区分別の主な取組みについては、94事業あり、「3 取組めた」「4 想定よりやや取組めた」が、75事業で全体の79.8%でした。また、「1 取組めなかった」が5事業あり、主には新型コロナウイルス感染症の影響によるもので、今後の状況によって取組みが実施できる可能性があります。

評価基準	重点事項(12)	事業別(94)
5 想定よりかなり取組めた	0 (0.0%)	4 (4.3%)
4 想定よりやや取組めた	5 (41.7%)	21 (22.3%)
3 取組めた	4 (33.3%)	57 (60.6%)
2 やや取組めなかった	2 (16.7%)	8 (8.5%)
1 取組めなかった	1 (8.3%)	4 (4.3%)



I 重点とする主な事項

項目	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	自己評価	担当係
1 事業周知と組織基盤の強化	本会の役割や各種事業の広報・周知	「社協だより」を計画通り年4回発行しました。 ホームページ、facebookの運用については、適宜情報の更新を行ってきました。	・社協だよりについては、記事の内容を大きく変更できない状況もあり、各種事業の広報・周知という観点で、どこまで効果があったか不明ですが、限られた紙面を最大限活用・充実していくことが今後の課題として捉えています。 ・ホームページ、facebookについては、タイムリーな情報提供という面では、まだ十分な取組みができておらず、今後のより一層の取組みが必要と認識しています。	3 取組めた	総務企画係
	一般会員や賛助会員の増強のため、関係各機関に出向く	令和4年度における新規賛助会員は、個人3名、法人3団体でした。事務局が関係機関に出向いての賛助会員勧誘までできませんでした。	・新規会員募集の方法にも更なる工夫が必要と捉えています。	2 やや取組めなかった	総務企画係
2 ボランティア活動の充実	スポットで参加できるボランティア活動を企画実施	企画実施はできませんでしたが、鎌倉市観光協会主催で12/27に行われた鎌倉駅周辺の清掃ボランティア事業「鎌倉駅周辺クリーン大作戦！」に協力し、登録しているボランティアグループや個人ボランティアへ参加の呼びかけをしました。	・スポットで参加できるボランティア活動は、多くの人にボランティア活動のきっかけになる取組みと認識しており、本会がネットワークをいかし登録者以外へも参加の呼びかけていく必要があります。	3 取組めた	地域福祉係



項目	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	自己評価	担当係
3 地域福祉の推進	ウイズコロナを前提に人数を絞った会議開催、オンライン会議の活用等による地域福祉推進への取組み	<p>会員相互の連絡を図り、共通の事項を研究・協議し、必要な対策を立案・実施することを目的とする部会活動のなかで、地区社協部会は9地区社協の会長のみに参加に絞り、必要な協議を行いました。</p> <p>施設部会では、児童・障がい・高齢の3分野の種別長と副種別長を対象として初のオンライン会議を開催し必要十分な協議ができました。</p> <p>その他、地域福祉活動計画推進等委員会の関係者との事前協議や重層的支援体制整備事業研修の講師との事前打合せでオンライン会議を活用することでウイズコロナを前提に業務の効率化を図ることができました。</p>	・オンラインで開催した施設部会は、事務局 PC(ホスト)の更新不足により映像の遅れが発生しました。令和5年度もオンライン開催が想定されるため、十分な準備を行い、円滑な会議の開催に努めます。	3 取組めた	地域福祉係
	災害ボランティアセンター、福祉避難所について市や関係機関と協議し、課題や現状認識の共有を通じた関係づくり	<p>市や関係機関と災害時の対応を協議するため、災害VC設置・運営マニュアルを完成させることに注力しました。</p> <p>令和4年度は「災害時受援計画」(案)が市から示され、その中に災害VC設置の候補地として鎌倉武道館が明記されたため、設置候補地を反映させた設置・運営マニュアルの作成に取り組みました。</p> <p>次年度以降、この設置運営マニュアルをもとに、市や関係機関と課題や現状認識の共有を図っていきます。</p>	・鎌倉武道館で災害VCを開設する際に、通信手段の確保やボランティア用のバス・自家用車の駐車場の確保、平常時からの資機材の保管場所の確保をどうするか等、市との協議の中で明らかにしていく必要があります。	2 やや取組めなかった	地域福祉係



項目	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	自己評価	担当係
4 重層的支援体制の整備	Libero かまくらの相談支援体制の充実	<p>分野別相談支援機関及び教育関係機関等に対し、個別ヒアリングを行うなど支援者が抱える課題等を共有することで横の繋がりを意識した支援体制構築に向け取組みを進めました。</p> <p>相談支援機関及び教育関係機関、行政機関等に対し、対面形式の研修会を2回実施することにより、鎌倉市内における多機関協働の基盤構築に向け、少しずつですが理解を得ることができました。</p>	<p>分野別相談支援機関、特に教育関係機関に対し本事業（主に多機関協働事業）の理解を十分に得ることが出来なかった機関があったと捉えています。理由としては、本事業は支援者支援（課題の解きほぐしを行うとともに、相談支援機関間のつなぎや調整機能の役割など）を主にやりますが、直接的な支援ツールなどが無いことなどから、支援者からよく分からないとの声が少なからず上がっています。</p> <p>実際にケース支援を共に行ってきた支援者からは「Liberoが入ることにより課題の整理、支援の方向性が少しずつ見えてきた」などの声もいただいていることから、引き続き事例を通じて支援者の理解を得ていく必要があると捉えています。</p>	4 想定よりやや取組めた	地域福祉係
	Libero かまくらがケース会議や現場の支援に積極的に関わり、全体調整の役割を担う	<p>分野別の支援会議等に参加し（48回）多機関協働事業者として、全体を俯瞰した立場で見ることにより、ケース全体の調整役としての役割を任されるようになってきました。また、相談支援機関等（当事者含む）から延べ771回の相談を受け、その都度俯瞰した立場で全体の調整を行いました。</p>	<p>当事者や家族等に直接お会いしていないケースがあることから、当事者や家族の想いや支援者の葛藤などを十分に理解しきれていない部分もあったと捉えています。</p> <p>当事者や家族、支援者の想いをしっかりと受け止めた上でケース全体の調整役を担っていく必要があると捉えています。</p>	4 想定よりやや取組めた	地域福祉係
5 権利擁護と地域生活支	就労準備支援事業、日常生活自立支援事業、成年後見センター事業、地域包括支援センター事業等において福祉の専門性の高い個別支援を多機関と連携し取り組む	<p>各事業において、児童・高齢・障害・困窮などの各分野の関係機関、支援機関・団体などと連携し、利用者の状況に応じたきめ細やかな個別支援に取り組むことができました。</p>	<p>これまでの取組みを継続するとともに、より多くの専門機関と連携していく必要があります。</p>	3 取組めた	あんしん生活係 地域包括支援センター

項目	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	自己評価	担当係
	感染予防対策を徹底し、安心・安全な施設運営	<p>施設利用者は高齢者であり、コロナ禍においては重症化リスクの高い年齢層とされているため、入館時の検温及び手指消毒の徹底、館内でのマスク着用及び手洗いや手指消毒の徹底、定期的な換気の実施、三密をさけるために主催講座などは定員の半数以下での実施、フェスティバル等事業やサークル作品展示会などのイベントについても、内容の縮小や館内での食事制限など、感染予防に取り組めました。</p> <p>結果、5施設での集団感染の発生はなく、安心・安全な施設運営に取り組むことができました。</p>	<p>コロナ禍による利用制限が緩和され感染予防のマスク着用なども個人の考えに委ねられました。</p> <p>しかしながら、施設利用者は70代から80代の利用が多く、コロナ感染による重症化リスクが高いと言われていたため、今後も状況判断をしながら、でき得る限りの予防対策を講じ、安心・安全な施設運営を行う必要があると感じています。</p>	4 想定よりやや取組めた	老人福祉センター
6 老人福祉センター	講座開催、各種行事の開催、サークル活動支援、送迎車による利用者の利便性向上、老人福祉センターの機能充実	<p>①講座の開催は、コロナ禍のため定員を半数に制限しながら、指定管理事業計画に沿って取り組むことができました。</p> <p>②各種行事のうちフェスティバル等は、過去2年間コロナ禍で開催を見送ってきましたが、感染予防対策を徹底しながら縮小しての開催に取り組むことができました。また、サークル作品展示会も感染予防対策を講じながらの開催に取り組むことができました。</p> <p>③マイクロバスの運行は、修理による運休を除き、ほぼ計画通りの運行に取り組むことができました。</p> <p>④ワゴン車の運行は、運行ルートを変更するなど利用者の利便性の向上に取り組むことができました。</p>	<p>①講座の開催、サークル活動、イベント開催については、コロナ禍での制限が緩和されましたが、コロナ感染がゼロになったわけではないため、鎌倉市と連絡調整をはかりながら、新たな感染予防対策を講じながらの施設運営を行う必要があると認識しています。</p> <p>②マイクロバス・ワゴン車の運行については、安全第一に運行を継続するために、運転手の安全運転講習等を実施していく必要があると認識しています。</p>	4 想定よりやや取組めた	老人福祉センター
	多世代交流事業の各センターでの実施	<p>5センターとも毎月の多世代交流事業は計画どおりに取り組むことができました。</p> <p>また、指定管理事業計画にある、5施設で統一性のある内容として、「スポーツチャンバラ体験」に取り組むことができました。</p>	多世代交流事業の開催を多くの方に広めていく必要があると感じています。	4 想定よりやや取組めた	老人福祉センター

項目	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	自己評価	担当係
6 老人福祉センター	「なんでも相談」を各センターで実施	<p>「なんでも相談」が地域住民にとって気軽に相談できる場であり、職員全員がその場で解決ができない内容や福祉的な相談でなくてもまずは相談を受止め、問題の解決、解消につながる適切な社会資源につなぐことができるか検討、対応する相談窓口であることを職員間で十分に共有できませんでした。</p> <p>また、各センターでの「なんでも相談」については、指定管理事業計画にある月1回程度の地区担当職員による「なんでも相談窓口」の開設には至りませんでした。</p>	老人福祉センターにおいて「なんでも相談」を開設するため、市社協事務局と老人福祉センターとで実施方法、実施体制などを調整していくことが必要と捉えています。	1 取組めなかった	老人福祉センター



Ⅱ 事業区分別の主な取組み

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
1 法人運営事業	1 法人運営事業	法人運営のための会議等の開催	理事会・評議員会の開催	理事会を6回（1回は書面開催）、理事懇談会を1回開催し、必要な案件の審議を行いました。 評議員会を4回（うち、1回は書面開催）開催し、必要な議案審議を行いました。 評議員選任・解任委員会を1回開催し、評議員の選任を行いました。	令和5年度は、理事、監事の改選となることから、選任に向けた取り組みを着実に進めていくことが必要と考えています。	3 取組めた		総務企画係
		効率的な組織運営	職員研修の開催	本会主催研修を6回（前年度3回）実施しました。 令和4年度の研修では、初めて市との協働事業として2回研修を実施し、市職員の参加も得ました。また、外部研修へも昨年度同様にオンライン研修を含め参加しました。	研修参加者へのアンケート結果を踏まえ、職員の資質向上が図られるような研修計画づくりに取り組むことが必要と捉えています。	4 想定よりやや取組めた		総務企画係
			クラウドサーバ導入・Wi-Fi化	当初の計画通りにクラウドサーバの導入、Wi-Fi化を実施しました。Wi-Fi化については、福祉センター内の会議等において、自席パソコンが持込可能となり、会議等の効率的な運用を図ることができました。	クラウドサーバの転換、Wi-Fi導入を実施し、令和5年度においては、システムの安定運用に努めることが必要と考えています。	3 取組めた		総務企画係
		会員の増強	一般会員及び賛助会員の募集・紹介	「重点とする主な取組み」にも掲げていましたが、十分な取組み及び成果を挙げることができず、今後の課題として検討を進めていきます。	賛助会員獲得に向けた具体的な取組みを検討・実施していくことが必要と捉えています。	2 やや取組めなかった		総務企画係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
1 法人運営事業	1 法人運営事業	共同募金・ 寄付金募 集の取組み	共同募金の 周知	<p>コロナ禍の影響により令和4年度も規模を縮小しての実施となり、十分な周知を図ることはできませんでしたが、可能な範囲での取組みを行いました。</p> <p>また、福祉教育の一環として、清泉女学院中学校の1年生182人を対象に共同募金の啓発活動を実施しました。</p>	若い世代への積極的な周知のため、街頭募金を含む学校等への働きかけ、DM募金の見直し、戸別募金に主力を置いた募金方法の検討を進めることが必要と捉えています。	3 取組めた		総務企画係
			福祉活動振興基金の周知	<p>基金パンフレットを発行し周知に努めました。寄付件数、金額ともほぼ前年並みの結果でした。</p>	市社協活動をSNSなどを駆使して活発化していくことが必要と捉えています。	3 取組めた		総務企画係
	2 基金運営事業	福祉活動振興基金管理委員会の開催	福祉活動振興基金管理委員会の任期満了に伴う改選を実施しましたが、委員会開催ができませんでした。	福祉活動振興基金の今後の在り方について議論していく必要があると捉えています。	1 取組めなかった		総務企画係	
2 企画広報事業	1 広報啓発事業	広報活動の 充実と福祉 情報の収集、 発信	かまくら社協だ よりの発行	当初の計画通り、年4回(5月、8月、11月、2月)発行しました。	発行月、記事内容の検証を行い、効果的な広報活動に努めていくことが必要と捉えています。	3 取組めた	IV-①	総務企画係
			社協パンフレ ット等の作成	鎌倉市社協ご利用ガイド(なるほど社協)第2版を1,000部作成し、社協組織や事業説明に活用しました。	作成したパンフレット等の更新や活用に注力していくことが必要と捉えています。	3 取組めた	IV-①	総務企画係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係	
2 企画広報事業	1 広報啓発事業	広報活動の 充実と福祉 情報の収 集、発信	ホームページ、 Facebook の運用	ホームページ、 Facebook の運用を 適宜行ってきましたが、 「重点とする主な取組 み」にも記載したとおり、 タイムリーな情報提供と いう面で課題があると認 識しており、各担当への 周知も含め今後の徹 底が必要です。	ホームページ、 Facebook の更 新、多くの方に見 ていただけるよう な内容の刷新、 タイムリーな情報 提供に努めていく ことが必要と捉え ています。	2 やや取 組めな かった	IV-①	総務企画係	
			イメージキャラク ターの運用	キャラクターのデザイ ン、愛称の募集を計画 的に行き、成果物とし て着ぐるみ納品に至るこ とができました。	各種イベント 等に参加し、社 協活動周知を図 っていくことが必 要と捉えていま す。	3 取組め た	IV-①	総務企画係	
	2 福祉功労者表彰事業	広報啓発イ ベント・行事 開催の検討	地域福祉推 進感謝の集 いの開催	コロナ禍の影響により 令和2・3年度と開催 を見送っていましたが、 令和4年度は規模を 縮小して開催することが できました。 開催方法、内容につ いて、令和5年度に引 き継げるような内容を 残しました。	従来のやり方 に囚われず、受 賞者への感謝の 思いが伝わるよう なイベントへの見 直しを行うことが 必要と捉えていま す。	3 取組め た		総務企画係	
			鎌倉福祉まつ りの開催	令和4年9月4日 (日)、2年間休止して いた鎌倉福祉まつりに 代え、規模を縮小し感 染症予防対策を講じ ながら「かまくら福祉の 市」として開催しました。 舞台催しや障がい福 祉関係者のバザーのほ か、難民・避難民支援 として婦人服バザーを 行い、売上金を鎌倉市 ウクライナ避難民支援と アルペなんみんセンター の2カ所に分けて寄付 しました。	新型コロナウイ ルス感染状況に 応じた感染防止 対策と、安全面 を配慮した混雑 緩和の対策が必 要になります。	4 想定よ りやや 取組め た		地域福祉係	
	3 福祉まつり事業								

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
3 ボランティアセンター	1 ボランティアセンター運営事業	ボランティアの相談・連絡調整及び活動機会の情報収集・提供	ボランティア活動に関する相談受付	ボランティア活動に関する相談実績(4~12月)150件(内訳:ボラ自身3件、ボラ依頼42件、学校9件、当事者2件、保険28件、活動希望18件、寄付31件、その他17件) 昨年同時期の実績は124件でした。 保険申込の相談は263件でした。	引続きボランティア活動に関する相談受付を行います。	4 想定よりやや取組めた	IV-③	地域福祉係
			施設部会でのボランティアニーズの調査	新型コロナウイルス感染症拡大防止のためボランティアの受入れが困難であると思われ、3年連続実施していません。	新型コロナウイルス感染症感染防止策の緩和に伴い、ボランティアの受入れ再開が予測されるため、様子を見ながら実施していきます。	1 取組めなかった	IV-③	地域福祉係
			事業所その他団体等でのボランティアニーズの調査	分野別のネットワークを活用し6月に実施しました。鎌倉市障害者地域作業所連絡会は定例会へ出席、鎌倉市精神障害者地域生活支援団体連合会及び障害児通所支援事業所は各一斉メール、その他は戸別訪問し実施しました。 計約50団体へ調査依頼をし回答があった23団体のうち18団体が個人ボランティア受入可との回答でした。また希望団体へは、ボランティアが作ったウエスを定期的に寄付しました。	障害分野以外の団体等へのボランティアニーズ調査も必要と認識しています。 ニーズ調査の結果、「ボランティア受入可」や「寄付物品受付可」等の回答があった団体に対してボランティアセンターから何らかのアクションが必要であり、特にボランティア人材の確保が必要であると認識しています。	4 想定よりやや取組めた	IV-③	地域福祉係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
3 ボランティアセンター	1 ボランティアセンター運営事業	ボランティアの相談・連絡調整及び活動機会の情報収集・提供	ホームページ等でのボランティアニーズの情報発信	ホームページ上に令和2年度のニーズ調査結果は掲載していますが、高齢者施設を中心に、コロナで受入中止となっているため、現在受入中止と表記しています。	ニーズ調査に回答してくれた団体の調査結果を掲載することが必要と認識しています。	1 取組めなかった	IV-①	地域福祉係
			相談内容の蓄積	相談実績ではボランティア依頼が最も多く、中でも男性ボラ・ヤローズへの依頼が突出しています。男性ボラ・ヤローズを含め多くのグループで高齢化が進んでいます。 また令和2・3年度とコロナ禍の影響によりほぼニーズがなかったイベントでのアトラクショングループへの依頼が数件ありました。 その他、数件ですが障害児・者の制度外での移動支援のボランティアニーズがありましたが対応が難しいのが現状です。	新規ボランティアの養成・勧誘のほか、障害児・者の移動支援の依頼等、制度の狭間の対応をボランティアで補うことが難しく、課題と感じます。	3 取組めた		地域福祉係



大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
3 ボランティアセンター	1 ボランティアセンター運営事業	ボランティア活動者への支援・助成及びボランティア育成・啓発	個人登録「はじめての一步」及び団体登録	<p>令和4年度の個人登録「はじめての一步」の新規登録者は11名あり、計17名となりました。</p> <p>17名のうち5名をボランティア活動に繋げることができました。</p> <p>団体では2団体(おもちゃとしょかんおなり、そらいろのたね)が活動中止となりましたが、新規で2団体(ボランティア倶楽部、team Sunny)が登録し、登録団体は計61団体となりました。</p>	<p>市外在住の方が市内でボランティア活動を希望されましたが、「はじめての一步事業実施要領」上ボランティアセンターには登録できませんでした。</p> <p>今後、ボランティア活動に意欲がある方へは、柔軟に支援・助成する制度が必要と捉えています。</p>	4 想定よりやや取組めた		地域福祉係
			ボランティア活動保険の加入手続きと保険料助成	<p>かまくらボランティアセンター登録56団体と大船地区ボランティアセンター、玉縄地区ボランティアセンターの登録者合計1,303名のボランティア活動保険加入手続きと保険料合計456,050円の助成を実施しました。</p>	<p>引続き支援・助成していきます。</p>	3 取組めた		地域福祉係
			ボランティア団体への助成	<p>14団体に、合計710,000円を助成しました。</p> <p>コロナ禍により、予定通りの活動ができなかったグループからの助成金の返金や申請辞退等の協力を得ながら、新しく申請するグループへの助成も実施するなど、適正な助成に取り組みました。</p>	<p>引続き適正な助成に取り組みます。</p>	4 想定よりやや取組めた		地域福祉係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
3 ボランティアセンター	1 ボランティアセンター運営事業	ボランティア活動者への支援・助成及びボランティア育成・啓発	ホームページ等によるボランティア団体の紹介	冊子「かまくらボランティアグループ」の更新・作製と、HP への掲載を行いました。	引続きホームページ等によるボランティア団体の紹介をします。	3 取組めた	Ⅳ－②	地域福祉係
			ボランティア養成講座の開催	7月15日(金)に「ボランティア入門講座」を実施し、15名の参加がありました。講座後、個人での活動を始めるための「はじめの一步」へ4名が登録する等、活動に繋がりました。	平日だけでなく誰でも参加できる日時を設定する必要があると捉えています。	3 取組めた	Ⅳ－③	地域福祉係
			活動場所の確保・調整	令和3年度に引続き、福祉センターがワクチン接種会場となり、利用が制限される中、活動規模の縮小等グループの協力を得ながら活動場所の確保・調整に努めました。	引続き活動場所の確保・調整に務めます。	3 取組めた	Ⅲ－①②	地域福祉係
			地下道ギャラリーでの団体紹介	4月と8月に地下道ギャラリーでボランティアグループの活動紹介をパネル展示した結果、グループへ問合せがあるなど市民の方から反響がありました。	引続き地下道ギャラリーでの団体紹介ができるよう、鎌倉市と連携します。	3 取組めた	Ⅳ－②	地域福祉係
			ボランティア連絡協議会会員向け研修会の開催	令和4年度始めに、ボランティア連絡協議会会員へ向けて研修テーマに関するアンケートを行い、希望に沿った内容の研修を8月、12月と2月にそれぞれ1回ずつ合計3回開催しました。 テーマは「防災と福祉のお話Ⅰ」、「防災と福祉のお話Ⅱ」、「多文化共生のお話」。	引続き会員の希望する研修内容に沿った研修会の実施に努めます。	5 想定よりかなり取組めた		地域福祉係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
3 ボランティアセンター	1 ボランティアセンター運営事業	鎌倉市ボランティア連絡協議会との連携	鎌倉市ボランティア連絡協議会役員会・委員会への出席	コロナ禍の影響で開催を見送った月が多かったが、役員会は9回、委員会は5回開催することができました。	引続きボランティア連絡協議会と連携し、情報共有・情報交換をしていきます。	4 想定よりやや取組めた		地域福祉係
			ボランティアセンター運営委員会の開催	第1回を6月に開催。主な議題は7月開催の「ボランティア入門講座」及び学校管理下以外での福祉教育の実施について。 第2回を12月に開催。主な議題は令和4年度のボランティアセンター重点事業である「隙間時間にボランティア」(平日就労している人でも受講可能なボランティア養成講座)や「夏休み子ども福祉体験」(夏休みを活用して福祉センターで4～5年生を対象とした福祉体験教室)について。	引続きボランティアセンター運営委員会を開催し、委員の意見を反映したボランティアセンターの運営に務めます。	3 取組めた		地域福祉係
	2 福祉教育・研修事業	福祉教育の推進	福祉教育メニューの拡充	新しく5つのメニューを加え、それぞれ実施することができました。 新しいメニューは、 ①盲導犬ユーザーのお話、②要約筆記体験、③防災と福祉のお話、④多文化共生のお話、⑤LGBTQなど性の多様性のお話。 12月までに全ての新しいメニューに対し学校から実施の依頼がありました。	引続き福祉教育メニューについて、随時拡充を検討していきます。	5 想定よりかなり取組めた	IV-②	地域福祉係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
3 ボランティアセンター	2 福祉教育・研修事業	福祉教育の 推進	校長会・教頭会等への福祉教育プログラムの紹介	福祉教育の紹介を校長会・教頭会に加え、鎌倉市学校教育研究会小学総合部会・中学総合部会へも行いました。 また9月から運用が開始された「福祉教育事業協力者への謝礼に関する助成金」の紹介も同会議にて行いました。	学校関係（校長会等）への紹介は行うことができたが、地域や民間企業へも行う必要があると認識しています。	5 想定よりかなり取組めた	IV-②	地域福祉係
			学校以外での福祉教育の実施	放課後の児童の居場所「かまくらっ子」にて、盲導犬ユーザーのお話、要約筆記体験、多文化共生のお話などの内容で8件実施しました。	放課後かまくらっ子では実施できませんでした。地域や民間企業での実施も必要であると認識しています。	4 想定よりやや取組めた	IV-②	地域福祉係
	3 災害ボランティアセンター	災害に備えた運営体制の準備	災害ボランティアセンターに関する協議と運営準備	市や関係機関と災害時対応を協議するため、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの完成に注力しました。 令和4年度に策定された市の「災害時受援計画」において、災害ボランティアセンター設置候補地として鎌倉武道館が明記されたことから、候補地を反映させた設置・運営マニュアルの作成に取組みました。	設置運営マニュアルをもとに、市や関係機関と課題や現状認識の共有を図ります。	2 やや取組めなかった	V-②	地域福祉係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
3 ボランティアセンター	3 災害ボランティアセンター	災害に備えた運営体制の準備	福祉避難体制や要配慮者の受入れ支援体制の検討	1月24日(火)に「災害時等における要配慮者の緊急受入れに関する協定」締結済施設(高齢13施設、障害5施設)と市福祉総務課の意見交換会を開催しました。 発災時に、この協定に基づく緊急受入れがスムーズに行うにはまだまだ課題が多いと認識しています。	引続き施設部会の防災作業部会の場を設け、市を交えて協議する必要があります。	2 やや取組めなかった	V-②	地域福祉係
			防災意識の啓発と共有	学校や地域で行われる福祉教育やボランティア連絡協議会の研修会等にボランティアグループ「防災士ネット」の講師派遣をコーディネートしました。 また、生活支援コーディネーターは、各地域の協議体での防災をテーマとした取組みにおいて、地区社協関係者等の地域住民と災害時要援護者への対応をどのようにすればよいかなど防災意識の共有を図りました。	ボランティアグループ防災士ネットの協力を得て地域住民や福祉関係者の集まる機会に防災講話を行うなど、防災と福祉の意識醸成に努めます。	3 取組めた	V-②	地域福祉係
4 地域福祉推進事業	1 地域福祉推進事業	多機関連携による相談対応	なんでも相談窓口の運営・拡充	なんでも相談の実績(4~12月)85件(内訳：家族関係4件、高齢当事者関係13件、障害当事者関係17件、認知症当事者関係1件、情報関係8件、行政関係2件、食糧支援関係9件、活動居場所関係7件、傾聴1件、その他23件)	「なんでも相談」で受けた相談内容や対応方法を職員間で共有し、「なんでも相談」の対応力の向上に努めます。	3 取組めた	I-①②	地域福祉係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
4 地域福祉推進事業	1 地域福祉推進事業	地区社協 活動等への 支援	地区社協等 の活動への参 加・協働	地区社協や自町連 等の定例会議等に出 席し情報共有を行いま した。また、サロン活動 や給食（配食）事業 に参加協力し、ネットワ ークの構築に努めまし た。 その他、地域活動の 再開に向けた相談や研 修等に取り組みました。	引き続き地区 社協等の活動に 積極的に参加 し、顔の見える関 係づくりを進めま す。	4 想定よ りやや 取組め た。	Ⅱ－①	生活支援係
			地域福祉活 動に関する情 報収集と提 供	生活支援コーディネ ーターと地区担当が毎 月打合せを行い、地域 福祉活動に関する情 報共有を図りました。 また、地区社協概要 書(地区社協部会)や 福祉団体の活動紹介 (団体部会)など部会 活動を通じた情報収集 と提供を想定していま したが、コロナ禍の影響で 部会活動自体が十分 に出来ませんでした。	引続き、生活 支援コーディネ ーターと地区担当 の打合せを定期 的に行い、職員 間の情報共有を 図ります。また、 各部会を積極的 に活用し、地区 社協や福祉団体 の活動に関する 情報収集と提供 に取組む必要が あると認識してい ます。	2 やや取 組めな かった	Ⅳ－②	地域福祉係
		物品の貸出 し	車いすの貸出 し	貸出実績数は 109 台となりました。 鎌倉婦人子供会館 から 10 万円の寄付を 受け、承認を得て計 4 台の車椅子を購入しま した。	令和 4 年度の 実績数は令和 3 年度と同等程度 でしたが、古い車 椅子の入れ替え が必要になりま す。	3 取組め た		地域福祉係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
4 地域福祉推進事業	1 地域福祉推進事業	物品の貸出し	催事用テント や綿菓子器 等の貸出し	催事用備品の貸出 件数は 13 件でした。	コロナ禍による 貸出しの滞りか ら、一部備品に 錆が発生してしま いました。催事用 貸出備品の周知 に今後も努めて いきます。	3 取組め た		地域福祉係
	2 地域福祉活動計画事業	かまくらさ えあい福祉 プランの推 進	福祉プランの 進行管理	かまくらさえあい福 祉プラン推進等委員 会は当初の計画期 間である3カ年が 経過した令和4年 3月末日をもって 解散しましたが、 延長した計画の 令和4年度と令和 5年度の2カ 年分の進行管理 は、市社協の年 度別の事業計画 と事業報告のな かで行うことと しました。	現計画の推進 を図りながら、 次期計画の策 定に重点的に 取組めます。	3 取組め た		地域福祉係
	3 部会・委員会活動事業	各種部会 の開催	地区社協部 会の開催	5月11日(水)、 10月26日(水)、 3月2日(木)に 地区社協部会 (会長会議)を 開催しました。 6月24日(金)、 7月13日(水)、 8月17日(水)、 9月22日(木) に正副部会長・ 事務局で構成 する地区社協 助成金のあり 方検討会を開 催しました。	地区社協助 成金のあり方 検討会の議 論を踏まえ、 令和6年度 からの助成 金の一部見 直しに向け て協議・調 整を行います。	3 取組め た		地域福祉係
			団体部会 の開催	新型コロナウ イルス感染 拡大のため 開催中止 となりました。	正副部会長 及び市社協 理事候補者 選出に向け て、令和5 年度は第1 回部会を 対面で開 催します。	1 取組め なかつ た		地域福祉係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
4 地域福祉推進事業	3 部会・委員会活動事業	各種部会の 開催	施設部会の 開催	令和4年12月 21日(水)に第1回施設部会(正副種別長 会議)をオンラインで開催しました。 令和5年1月24 日(火)に施設部会(災害時支援協定施設意見交換会)をオンライン で開催しました。	いずれもオンラインで開催しましたが、事務局 PC(ホスト)の更新不足による映像の遅れが発生 しました。 円滑なオンライン開催に向けて 丁寧な準備を行います。	2 やや取 組めな かった		地域福祉係
	5 居住支援協議会に関する事業	多機関連 携による相 談対応	住宅確保要 配慮者相談 窓口の運営	高齢者やひとり親世 帯など、住居確保が難 しい方の相談に応じ、 居住支援協議会に加盟する協力不動産屋 店や福祉関係団体と 連携し居住支援を行いました。(相談件数16 件) また、居住支援協議 会が行う研修会への企画・実施に協力しまし た。	住居の問題を 抱える対象者は 他にも生活課題 を抱えている場 合が多いため、 様々な相談支援 機関と日頃から 顔の見える関係 が必要です。 (令和5年度か らあんしん生活 係に担当替え予 定)	3 取組め た		地域福祉係
5 重層的支援体制整備事業	1 重層的支援体制整備事業	重層的支 援体制整 備事業	相談支援機 関等からの相 談受付	相談支援機関等 (当事者含む)から延べ 771回の相談を受 付、適宜対応しまし た。	多くの相談支 援機関等が相談 できる環境を整 えるため、引続き 個別ヒアリングを 行うことが必要と 捉えています。	3 取組め た	Ⅱ-①②	地域福祉係 (Liberoか まくら)

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
5 重層的支援体制整備事業	1 重層的支援体制整備事業	重層的支援体制整備事業	「参加支援事業」の取組み	相談を受付けた当事者(世帯含む)の抱える課題が複雑化・複合化しており、課題の解きほぐしを丁寧に行っているため、その先の参加支援(社会との繋がり)までいけるケースが少なく、参加支援事業として充実させるまでには至りませんでした。	本人の希望・ニーズを踏まえ、課題の整理、役割分担を進めるなど、参加支援事業が開始できるよう多機関協働を充実させる必要があります。	2 やや取組みなかった	Ⅱ-①②	地域福祉係(Libero かまくら)
			「多機関協働事業」の取組み	分野別の支援会議等に参加し(48回)多機関協働事業者として、全体を俯瞰した立場で相談支援機関等に対する調整に努めました。	当事者や家族の想いや支援者の葛藤などを十分に理解しきれない部分もあったと捉えています。 それらを踏まえ、全体の調整役を担っていく必要があると捉えています。	4 想定よりやや取組めた	Ⅱ-①②	地域福祉係(Libero かまくら)
			支援関係機関等との連携強化	相談支援機関及び教育関係機関等に対し個別ヒアリングを行い、支援者が抱える課題等を共有し、多機関が連携していくための調整役として、Libero かまくらの役割について理解を得ることに努めました。特に、これまで本会の取組みが不十分であった子ども関係の機関と連携、調整等ができるようになったことは、大きな成果と考えています。	全ての相談支援機関及び教育関係機関等に対し本事業の理解を十分に伝えきれていないため、引続き個別ヒアリングを行うことが必要と捉えています。	4 想定よりやや取組めた	Ⅱ-①②	地域福祉係(Libero かまくら)

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
6 生活支援体制整備事業	1 生活支援体制整備事業	生活支援 体制整備 事業	地域の社会 資源の情報 収集・発信	サロン等地域の活動 に参加し SNS による 情報発信や社協だより 「こんにちは！生活支 援コーディネーターです」 欄で毎号掲載したほ か、各地区社協だより へ寄稿等を行いました。 地区社協の HP 作 成の際、ボランティアグ ループと地区社協の橋 渡しを SC が行いまし た。	FaceBook を 積極的に活用 し、社協だよりの 情報発信を継続 します。	4 想定よ りやや 取組め た	IV - ②	生活支援係
			生活支援サ ービスへの活 動支援	地域介護予防活動 支援事業(いきいきサー クル事業)、サービス B、 近所の団らん助成事 業の制度活用支援、 企業の助成制度紹介 を行いました。	地域に出向き 事業の拡大に努 めます。	3 取組め た	IV - ②	生活支援係
			居場所や活 動拠点の確 保	高齢化と担い手不 足によりサロン活動が減 る地域もありましたが地 域包括支援センター等 と連携し、活動場所の 確保に努めました。	サロン等活動 希望者が活動で きるよう、地域の 拠点の情報を収 集します。	3 取組め た	Ⅲ - ①②	生活支援係
			生活支援ニ ーズの把握・共 有	地域の居宅介護支 援事業所のケアマネと 交流し、地域の居宅高 齢者・家族に欲しいも の、移送サービス、居場 所作り、小さな困りごと の手助け等の必要性に ついて意見を得ました。	ケアマネや民 生委員など日頃 高齢者支援に携 わる関係者と連 携し、高齢者の 生活支援サービ スとしてどのよう なものが必要か意 見を聞く機会を 多く持ちます。	3 取組め た	Ⅱ - ①②	生活支援係
			協議体の設 置及び運営	現在 6 地区で運営 しています。(材木座、 第三、腰越、深沢、大 船、玉縄)	協議体未設 置地域に対して 設置に向けた取 組みを今後も 継続していくこと	3 取組め た	Ⅱ - ①	生活支援係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
6 生活支援体制整備 事業	1 生活支援体制整備 事業	生活支援 体制整備 事業	近所の団らん 助成事業	近所の団らんは新規 で7団体開催された。	団体数は増え ましたが、事業が 継続しない団体 もあり、開始時の 計画や企画の支 援も必要と考え ます。	4 想定よ りやや 取組め た	Ⅲ－①	生活支援係
			丁寧な聴取り による相談受 付対応	新規相談者や利用 者の相談に対してアウ トリーチ等により適時対 応し、相談内容によっ ては関係機関に繋がま した。新規相談件数は 3月末現在で33件と なっています。	電話での初回 相談である程度 の方向性を示せ るよう丁寧な聴き 取りを行います。	3 取組め た		あんしん生 活係
			適正な支援 提供のための 局内カンファ レンスの開催	利用者等の支援内 容の協議を行う局内カ ンファレンスを3月末現 在14回(毎月の定例 12回、臨時2回))開 催しました。令和4年 度の利用者数は、死 亡、施設入所等により 減少傾向にあります。3 月末利用者数は22 人(高齢5、精神8、 知的7、身体2)で、う ち10人は生活保護 受給者です。	カンファレンス を行うことが局内 で定着してきてお り、職員一人一 人が多角的な視 点から協議・検 討できるようスキ ルアップをしていき ます。	3 取組め た	Ⅱ－②	あんしん生 活係
7 日常生活自立支援事業	1 日常生活自立支援事業	日常生活 自立支援 事業	生活支援員 の専門性向 上の研修	県社協の研修は現 任の支援員は受講済 みのため令和4年度の 受講者はいませんで したが、年2回の連絡会 で難しい支援者に対 する支援方法などの情 報を共有することができ ました。	経験年数の長 い生活支援員に 対し、今後専門 的な研修にも参 加してもらうよう 働きかけます。	3 取組め た		あんしん生 活係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
7 日常生活自立支援事業	1 日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業	支援関係機関等への制度の周知	令和5年度から実施する利用料改定について、利用者とともに関連する支援機関にも説明を行いました。 また、障害者支援協議会でも説明を行いました。	利用料改定に伴い関係機関への利用料の説明ができましたが、事業内容を理解していない機関もあるため、今後更なる事業説明の場を設ける必要があります。	4 想定よりやや取組めた	IV-②	あんしん生活係
8 成年後見センター事業	1 成年後見センター事業	成年後見センター事業	円滑な制度利用に向けた制度の利用支援	市民からの相談で「制度の概要」と並んで「銀行から成年後見制度の検討をした方がよいと言われて」というケースが多いのを受け、金融機関(44箇所)に対してアンケートを行いました。金融機関の状況を踏まえ市民からの後見利用相談に活かしています。	市民とのパイプ役とも言える民生委員児童委員に対し、広報を行い、制度利用の促進を図ることです。	4 想定よりやや取組めた	V-①	あんしん生活係
			弁護士や司法書士等による専門相談の定期実施	3月末現在、弁護士等による専門相談件数は19件(高齢14、知的1、精神3、その他1)となっています。本会職員が対応した件数は343件ですが、必要によって専門相談や専門部署に繋げるなど市民の不安や課題の解決に向けて取り組みました。	市広報紙や社協だよりだけではなく、日々、本会に寄せられる相談の中でもPRをし、利用できる機会を増やしていきます。	4 想定よりやや取組めた	V-①	あんしん生活係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
8 成年後見センター事業	1 成年後見センター事業	成年後見センター事業	市民向け講演会等による権利擁護の普及啓発	市民向け講演会を2回、事業者向け講座を2回開催したほか、地域包括支援センター及び金融機関からの要望により、成年後見制度の講座を6回開催するなど、権利擁護の普及啓発に努めました。	市民向け講演会等の様子をホームページだけではなく、社協だよりでも啓発広報していきます。	3 取組めた	V-①	あんしん生活係
			市民後見人の登録・活動支援	懸案であった市民後見人2名を誕生させることができました。 家裁からの追加選任により本会の2つの法人後見事案を複数で担当することとなり、具体的な活動を開始したところです。	残る2名の未受任者への対応を市と協議する必要があります。	5 想定よりかなり取組めた	V-①	あんしん生活係
9 法人後見事業	1 法人後見事業	法人後見事業	円滑な制度利用に向けた制度の利用支援	本会の法人後見事業を広く利用してもらう方針のもと、市や地域包括支援センターから随時相談を受けるようにしており、令和4年度は1件の受任を行い、現在の受任件数は14件となっています。 これまでの受任により、一定の実績・経験を蓄積してきたところですが、今後のあり方について検討も必要と考えます。	法人後見事業を開始して4年が経過したため、蓄積されたノウハウを事務マニュアルにまとめていきます。 また、今後どこまで受任件数を増やすのか適正件数など検討が必要です。	4 想定よりやや取組めた	V-①	あんしん生活係
			法人後見審査会の開催	令和4年度の審査案件は1件で、2回の審査会を開催し、これまで同様、委員の専門的な立場から活発な議論が行われました。	よりスピード感を持って対応できるよう、WEB会議を活用できるようにしていきます。	3 取組めた	V-①	あんしん生活係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
9 法人後見事業	1 法人後見事業	法人後見 事業	職員の専門 性向上の研 修	県社協が実施する 法人後見担当者研修 が3回開催され、本人 理解や本人死亡後の 対応等について理解を 深めるとともに、法人後 見実施社協連絡会に 参加し情報交換・情報 共有を図るなど、専門 知識の向上に努めまし た。	県社協以外の 団体が主催する 研修にも参加 し、資質の更なる 向上を目指しま す。	4 想定よ りやや 取組め た	V-①	あんしん生 活係
10 生活困窮者自立支援事業	1 就労準備支援事業	就労準備 支援事業	就労準備プロ グラムの作 成・支援	令和4年度の利用 者数は14人です。 新規は6ケースで、 本人の希望や意欲を 踏まえ、自立相談支援 機関や福祉事務所と 情報共有を行いながら プログラムの作成を行 いました。利用の終結に あたって同様です。	福祉事務所や 関係機関と連携 し、利用者が増 加するよう努めて いきます。	3 取組め た	II-②	あんしん生 活係 (スリー・プラ ス 鎌倉)
			就労準備支 援プログラムへ の協力企業 や団体の拡 充	現在は10か所の 会社・団体等の協力に より、就労・労働等の 場や機会の提供をいた だいています。 令和4年度は、新た に4箇所の協力をいた だきました。	引き続き利用 者のニーズに合っ た就労体験場所 を開拓していきま す。	4 想定よ りやや 取組め た	II-②	あんしん生 活係 (スリー・プラ ス 鎌倉)
			利用者への 柔軟で多様 な支援の取 組み	本事業は、「日常生 活自立」「社会自立」 「就労自立」の3段階 で進めることとしており、 生活習慣の立て直し、 他者との関係づくり、仕 事へのイメージ育成な ど、就労に向けて利用 者に無理のない支援に 努めています。	利用者の掘り 起こしとともに、 柔軟な個別支援 を行うためにも、 関係機関に対し て理解を深めて もらう必要があり ます。	3 取組め た	II-②	あんしん生 活係 (スリー・プラ ス 鎌倉)

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
11 援 護 事 業	1 貸付事業 緊急援護事業資金	緊急援護金の貸付・支給	緊急援護金の貸付・支給	緊急援護金（給付）は、10件 17,930円 緊急援護金（貸付）は、39件 746,000円	緊急援護金の在り方、事務改善に向けて、市生活福祉課と継続的な協議を行うことが必要と捉えています。	3 取組めた	V-③	総務企画課
	2 生活福祉資金貸付事業	生活福祉資金の貸付	特例貸付資金（コロナ特例）の貸付	令和4年4月～9月 緊急小口資金 90件、17,220,000円 総合支援資金 96件、50,950,000円	資金貸付の返済事務（債務者からの相談）への対応を行います。	4 想定よりやや取組めた		あんしん生活係
			通常の生活福祉資金の貸付	新規通常案件は申請までつなぐことができました。 申請件数は、 ・福祉資金 3件 ・緊急小口 2件 ・教育資金 4件 でした。	教育支援資金は申請・相談時期が集中するため、他の貸付を含め事務処理の効率を上げる必要があります。	3 取組めた		あんしん生活係
	3 あい援護事業 年末たすけ	年末たすけあい援護事業	年末たすけあい募金の配分	令和3年度までの課題であった配分先の拡大について要綱改正を行い、令和4年度実現することができました。	実情に合った配分先の検討を常に行うことが必要と捉えています。	4 想定よりやや取組めた		総務企画課
	4 災害見舞金等給付事業	火災等の小災害時における緊急一時的な避難者の受入れ	老人福祉センターにおける避難者の受入れ	令和4年度は、災害による避難者を受け入れる仕組みは整っていましたが、事案発生がありませんでした。	避難者が発生した場合、市生活福祉課と連携した対応を行うことが重要と捉えています。	3 取組めた	V-②	総務企画課
			宿泊施設等への避難者の受入れ調整	令和4年度は、災害による避難者を受け入れる仕組みは整っていましたが、事案発生がありませんでした。	避難者が発生した場合、市生活福祉課と連携した対応を行うことが重要と捉えています。	3 取組めた	V-②	総務企画課
			災害見舞金の支給	令和4年度は、3件の支給がありました。 全焼1件 半焼1件 重症1件	避難者が発生した場合、市生活福祉課と連携した対応を行うことが重要と捉えています。	3 取組めた		総務企画課

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
11 援護事業	4 災害見舞金等給付事業	その他生活 困窮者やコ ロナ禍を見 据えた取組 み	フードパッケー ジ配付等食 糧支援	令和4年度の食糧 支援の実績427件、 延べ人数61人(内 訳：単身世帯37、そ の他世帯24) ※一人 当たり1,300円相当 の食糧を月2回配付 ※生活保護受給者へ は配付なし 鎌倉ライオンズクラブ からの寄付による食支 援の実績250件、延 べ人数61人(内訳： 単身世帯22、その他 世帯22) ※一人当たり2,000 円相当のお米券又はグ ルメカードを月1回配 付※生活保護受給者 4世帯	本来の目的で ある「緊急的に 食に困った方に 一時的な支援を することで自立に つなげること」に沿 った支援を行うこ とが必要と捉えて います。	3 取組め た	V-③	地域福祉係
			企業等に「福 祉教育プログ ラム」を提案 し、地域・社 会貢献活動 支援	企業等を対象とした 福祉教育の実施や新 規賛助会員の獲得に は至りませんでした が、福祉教育プログ ラムをもとに事業説 明を行いました。福 祉教育の事業説明 を行った企業等は 、MUJICafe、青 年会議所、鎌倉ロー タリークラブ、鎌倉 ライオンズクラブ、 大船地区ボランティア センター、玉縄地区 社会福祉協議会理 事会。	引続き、企業 等への福祉教育 プログラムの周知 を行うなど接点を 持ち、地域貢献 活動へのきっかけ を探る事が必要 と認識していま す。	2 やや取 組めな かった	VI-①	地域福祉係

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
12 助成事業	1 有償福祉活動 グループ助成	有償福祉活動グループ助成事業	在宅福祉サービス活動団体への助成	令和4年7月21(木)鎌倉市ホームヘルプサービス連絡会定例会にて、住民参加型在宅福祉サービス団体活動助成金40万円の交付を行いました。	住民参加型在宅福祉サービス団体の担い手をいかに集めるかが課題です。	3 取組めた		地域福祉係
	2 福祉団体等 助成事業	福祉団体等助成事業	福祉当事者団体への助成	令和4年6月27日(月)~7月8日(金)第6種会員である福祉当事者14団体のうち、申請のあった11団体へ助成金(総計44万円)の交付を行いました。	引続き申請のある団体へ交付していきます。	3 取組めた		地域福祉係
	3 地区社協 助成事業	地区社協助成事業	地区社協への助成	令和4年6月27日(月)~7月8日(金)第1種会員である9地区社協へ申請額に基づき助成金(総計517万円)の交付を行いました。	引続き助成金の交付していきたい。	3 取組めた		地域福祉係
13 地域包括支援センター	1 地域包括支援センター事業	地域包括支援センター事業	総合相談・支援業務	月平均の新規相談は約50件、継続相談件数は約30件で、多種多様な相談を受けています。 また、ケア会議(個別4:小地域2)を開催し関係機関との連携を行うとともに、SCと協働し移動販売車の派遣に向けて取組みました。	相談が専門性、複雑性を有するケースが多くなり、これまで以上に多職種との連携や情報共有していく必要があります。	3 取組めた		地域包括支援センター
			認知症予防への取組み	認知症サポーター養成講座を小中学校を含め4回開催するとともに、関係機関と連携しアルツハイマー月間などの周知啓発活動に取組みました。	学校との連携による福祉教育活動が順調に進んでおり、引き続き福祉教育事業と連携し、継続的に啓発していきます。	3 取組めた		地域包括支援センター

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
13 地域包括支援センター	1 地域包括支援センター事業	地域包括支援センター事業	介護予防マネジメント	丁寧な面談を行い、利用者にあつた介護プランを作成しており、ケアプランの件数は、月平均で約180件です。 また、事例検討会(隔月1回)を開催し、ケアマネとの連携・支援を行いました。	高齢者が少しでも要介護状態になることを防ぐよう、引き続き本人の気持ちに寄り添いながらのプラン作りを継続していきます。	3 取組めた		地域包括支援センター
		虐待・消費者被害等への対応	虐待案件と思われるケースは、速やかに市に連絡し、医療機関や保健所等と連携して対応しており、令和4年度の対応件数は4件でした。 また、消費者被害については、訪問時の注意喚起や消費生活センターの情報を活用し安全ニュース等を定期的に利用者に配布しました。	よりスピーディに対応できるよう市、他の関係機関との連携を強化していきます。	3 取組めた		地域包括支援センター	
		地域包括支援センター事業	介護予防・介護者支援の取組み	令和4年度は、介護予防教室を5回開催しました。 また「わくわく算数教室」も月に1回のペースで開催し、新型コロナウイルス対応を行いながら取組を進めました。	予防教室は非常に好評であるため、内容に工夫を凝らしながら継続的に実施していきます。	3 取組めた		地域包括支援センター



大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
14 老人福祉センター運営	1 運営事業 事務局	事務局運営事業	送迎車両の保険対応	保険対応について、鎌倉プラネット保険と連携をとり適切な対応を行いました。	事故の再発防止のためドライバー研修が必要と捉えています。	3 取組めた		総務企画係
	2 名越やすらぎセンター運営事業 3 腰越なごやかセンター運営事業 4 教養センター運営事業 5 今泉さわやかセンター運営事業 6 玉縄すこやかセンター運営事業	名越やすらぎセンター運営事業 腰越なごやかセンター運営事業 教養センター運営事業 今泉さわやかセンター運営事業 玉縄すこやかセンター運営事業	施設及び設備の適切な維持管理	各施設とも鎌倉市老人福祉センター共通仕様書・施設別仕様書に基づき、①設備機械運転業務②設備機械保守点検③日常清掃及び給茶業務④定期清掃⑤環境衛生管理業務⑥その他維持管理に必要な業務について取り組みができた。	腰越なごやかセンター以外の施設は、建屋や設備の老朽化がめだち、小破修繕では賅えず、市の負担による早急な大規模修繕が望まれています。	3 取組めた		老人福祉センター
			サークル活動の育成・支援、作品展・発表会の実施	①各施設とも、サークルへのサポートに取り組むことができました。 ②作品展や発表会については、コロナ渦は続いているものの、各施設で感染拡大予防に留意し、必要な対策をとりながら、おおむね事業計画のとおり取り組みができました。 ただし、教養センターサークルが実施していた、湘南記念病院での作品展は、コロナ渦のため実施見送りを継続しました。	施設利用者の高齢化によるサークル運営継続へのサポートが課題と認識しています。	3 取組めた		老人福祉センター



大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
14 老人福祉センター運営	2 名越やすらぎセンター運営事業 3 腰越なごやかセンター運営事業 4 教養センター運営事業 5 今泉さわやかセンター運営事業 6 玉縄すこやかセンター運営事業	名越やすらぎセンター運営事業 腰越なごやかセンター運営事業 教養センター運営事業 今泉さわやかセンター運営事業 玉縄すこやかセンター運営事業	各種相談事業の実施	①各施設の職員による生活福祉相談（随時） ②各施設の保健師による健康相談(週1回) ③弁護士による福祉法律相談(年1回)＜腰越なごやかセンター、教養センター、今泉さわやかセンター、玉縄すこやかセンター＞について事業計画にとり取り組ができました。	生活福祉相談を実施していく上で、職員の資質向上を図る必要があると感じています。	3 取組めた		老人福祉センター
			送迎サービスの充実	①名越やすらぎセンターのマイクロバス運行については、おおむね予定どおり取り組みができました。事故による修理中も専門業者への運行委託によって支障なく運行しました。 ②腰越なごやかセンター、今泉さわやかセンター、玉縄すこやかセンターのワゴン車送迎については、運行ルートの変更を行いながら、新規送迎サービス利用者の充実に図りました。	①マイクロバスは保有台数（リース）1台での運行のため、故障時や整備時の運行が課題です。 ②ワゴン車運行もマイクロバス同様の課題に加え、利用者ニーズと運行台数が課題と認識しています。	3 取組めた		老人福祉センター
			コロナ禍に則した老人福祉センターの運営	各施設とも入館時の検温・手洗い消毒の徹底、施設内マスク着用、サークル活動や講座開催時の換気、講座受講者の半数制限による三密の回避などの感染予防対策を実施しました。老人福祉センター利用による集団感染の報告はありませんでした。	主催事業（自主事業）における感染予防対策の緩和をどこまで行うのが課題であると認識しています。	3 取組めた		老人福祉センター

大 事業	中 事業	小 事業	主な取組み	取組みの成果	今後の課題	評価	プラン 掲載	担当係
14 老人福祉センター運営	2 名越やすらぎセンター運営事業 3 腰越なごやかセンター運営事業 4 教養センター運営事業 5 今泉さわやかセンター運営事業 6 玉縄すこやかセンター運営事業	名越やすらぎセンター運営事業 腰越なごやかセンター運営事業 教養センター運営事業 今泉さわやかセンター運営事業 玉縄すこやかセンター運営事業	各種講座や行事の開催	①各種講座については、各施設とも指定管理事業計画に沿って取り組みができました。 ②行事については、各施設ともコロナ渦で開催を見送っていた「フェスティバル等事業」が、規模を縮小して取り組むことができました。	主催事業（自主事業）における感染予防対策の緩和をどこまで行うのが課題であると認識しています。	3 取組めた		老人福祉センター
			多世代交流事業の実施	悪天候予報による開催延期や見送りを除き、各施設とも事業計画に沿って取り組むことができました。 指定管理事業計画による統一性・関連性をもたせた事業については、ねりんピック開催にちなんで9月に「スポーツチャンバラ体験教室」に取り組むことができました。	老人福祉センター利用者アンケートによると、多世代交流事業の認知度が低いことがわかった。 事業周知の必要性があります。	3 取組めた		老人福祉センター
			災害時の避難所対応	①福祉避難所について、ガイドラインに沿った各施設ごとのマニュアルづくりに取り組む(協力する)ことができました。 ②各施設とも小災害の避難所対応はありませんでした。 ③指定管理事業計画に沿って、各施設の職員を対象とした、災害時・防災に関する研修に取り組むことができました。	福祉避難所の運営に関する鎌倉市との取り決め（協定）がされていません。	3 取組めた	V-②	老人福祉センター